

ゆめ風だより

書
左右津安輝子

阪神淡路大震災から30年 あらためて振り返って

理事 ^{いしばし ひろあき}
石橋 宏昭

震災の前日、今思
い起こすと、日常に
ない不思議な事象が
いくつかあった。

震災前日は祭りで
仕事に行ったが、仕
事は早めに終わり、
催し物の企画準備で
神戸駅に行っていた。

福祉のまちづく
りの催しのためのデ
モンストレーションをやっていた。

それが終わって神戸駅で車に乗ろう
とした時、両足が凍った。夜は「え
んぴつの家」で会議を行った。私

は翌日早めの仕事の予定があったの
で、早めに帰路についた。家に着き
車から降りて空を見ると、赤々とし
たピンク色の月がとても印象深かつ

たのを思い出す。気持ち悪いなあ
と思いつつ家に入った。横になって寝
ようとしたが、首が痛くてなかなか
寝付けなかった。1時過ぎ迄寝付け
ず、うたたね状態でトラックがぶつ
かってきたような感触があり、次に
ゴーンという音がして大きく揺れ
た。これが1月17日、午前5時46分、

1996年1月16日～17日 障害者春闘「いやしと点検大いどう」神戸市



INDEX

- 01 巻頭言
- 03 総会報告
- 04 能登半島地震 被災地より
- 06 リレーエッセイ 災害と障害者 第八十四回
- 08 BCPのご相談はゆめ風へ

- 09 応援団からこんにちは! vol.13
- 10 カンパをいただいた団体 / 事務局の動き
- 11 会計報告
- 12 各地からの風だより

阪神淡路大震災の最初の揺れだった。母親は入院中で、父親と二人暮らしだった。家を飛び出そうとしたが、ガラスの破片等で危ないからと父親に止められ、家から出られない状態だったが、ご近所の外国人に助け出された。地震の揺れが弱くなつた時点で「六甲デイケアセンター（以下六甲デイ）」に向かった。父親は弟家族のもとに避難した。

震災初日と翌日は六甲デイに泊まり、3日目には大阪の全障連の事務所に行つて被害状況などを報告。その帰りに大阪府警に寄つて通行証をもらつて再び六甲デイに戻つた。

数日後、職場から電話があり「出勤してくれ」とのことだった。六甲デイから出勤する日が1月半くらい続いたと思う。そのころ、六甲デイからも避難所としての提供は終えるから出て行ってほしいと言われたが、たまたま仮設住宅が当たつて住む場所は確保できた。

仮設住宅では1年1か月を過ごし

た。ようやく仮設住宅に入ることができたが、ポートアイランド仮設住宅は駐車場がなかった上、障害者用「駐禁除外」の有効期限が切れていた。たまたま震災前から兵庫県警が建て替えのため、仮設庁舎がポートアイランドにできていたので、そこへものを言いに行つたが、自宅から半径2キロ以内で確保してもらわないと困る、と言われた。しかし、ポートアイランドという島の事情もあり、借りられる駐車場は全くなかつた。仮設住宅の管理者と県警に何回か往復し、県警にも「探せるなら探してくれ」と言つたが、最終的には兵庫県警から神戸市住宅局に「駐車許可証を発行してくれ」と要望して認められた。仮説は風呂が小さく、段差も多く、プレハブの隙間から風も入ってくる。屋根から雨漏りもあつた。

通勤については道路がデコボコで時間もかなりかかった。職場（神戸市環境局・ゴミ収集が主な仕事）で

は、仮設に入っている者たちはみんなイライラしていた。各地からの応援部隊は1日も早く日常に戻そうと頑張ってくれたが、現場の者は避難所に帰つても安眠出来ず、できるだけ早く仕事を切り上げようとして、現場と応援部隊の意識の差が大きかった。また、同じ職員でも被害がひどくて避難所で寝泊まりしている者と、被害のないベッドタウンで暮らしている者との間に確執も生まれた。神戸市の別枠採用の障害者職員も普段の職場ではなく、自宅近くの現場に派遣された。障害の程度等は配慮なく、重たいものなども運ばなければならず、しんどい状況だったそう。事務職の車いす利用の障害者も、たとえ駅まで行つても道路もデコボコで通勤ができなくなつた。無理して体の不調に陥つた障害者も少なくない。

今後の災害に備えて、そうした職場環境や障害への合理的配慮も考えていく必要があると思つている。

福島県郡山市で「第24回定時総会」を開催しました

ゆめ風基金事務局 植野 加代

3月15日（土）、郡山市の「生活介護事業所たいむIL」にて第24回定時総会が開催されました。正会員総数54名のうち出席会員は38名（委任状参加17名含む）で、過半数以上の出席があり総会は成立しました。

議案としては、昨年度の事業報告及び決算、今年度の活動計画及び予算、役員選任について審議され、いずれも可決されました。役員選任では、ゆめ風事務局員の阿部俊介が新理事として就任しました。

能登半島地震の救援活動の報告では、12月末時点で39件、総額63,259,140円の救援金をお届けし、新潟県では、液状化の被害のため移転を余儀なくされている事業所もあり、今後も被災地の復興に向け尽力していくことを伝えました。

福島県は東日本大震災後も2度の震災と洪水被害に見舞われました。2日目の交流会では、現地の団体よりこの間の活動報告をしていただきました。

いわき自立生活センターの長谷川秀雄さんは、復興公営住宅で生じている、独居化や高齢化、生活困窮者の増加などの課題に



対し、2021年7月「フードバンクふくしま」を立ち上げ、食料等の配布会を始められました。また、この活動を安定して継続させるため、就労継続支援B型事業所の仕事として位置づけて取り組んでおられ、その仕組みづくりに感嘆しました。

2日間の日程を終え、「コーヒータイム」の橋本由利子さんに浪江町中浜海岸付近を案内していただきました。

浪江町は「福島イノベーション・コースト構想」の下で再開発が進み、建設途中のホテルなども見られましたが、元の人口の10%しか地元に戻っていないとのことでした。

震災と原発事故という性質の異なる災害に遭った福島県。今回見聞きしたことを真摯に受け止め、今後の活動に活かしたいと強く思いました。

参加できなかった福島の団体から届いたアンケートより

- + 発災するまで原発事故の怖さを知らなかった。
- + 東日本大震災は本当に未曾有の大震災でしたが、それによって、地域の障害福祉が多少なりともスキルアップされ、各事業所や関係機関との連携の大切さを身をもって学ぶ機会となり、実際に連携も進められています。

※ 2024年度の活動報告書等は、ゆめ風のホームページをご覧ください。

能登半島地震 被災地より

令和六年の出来事

私は、ほうぷ子どもの家で児童発達支援管理責任者として、生活介護ほうぷにおいては、サービスマン管理責任者として日々奮闘しております。

また、私はダウン症の子どもを持つ母親でございます。何かとご家族様からの相談では、つつい経験したことを参考に熱く語ってまいります。

令和六年一月一日午後四時十分、能登半島地震が発生しました。私たち家族は避難場所へ急いで移動することが出来ました。そして避難場所からほうぷ子どもの家の利用者の安否確認を急いで行いました。家族様からは「大丈夫です」と言う返信が戻ってきて胸をなでおろしました。中には、家が倒壊して避難所生活を余儀なくされた家族もいました。これからしばらくは、不自由な生活をされていくのかなと考えると寂しくつらい思いになります。でも、みんな生きてて良かったと心から感謝、喜びを感じました。

震災により、事業所の外壁や地面に



かわさきひろこ
川崎 宏子
「七尾市」
ほうぷ子どもの家
職員

隆起や亀裂などがあり、玄関前も損傷があり出入りに注意しなければならぬ状況でした。内部は、テレビ二台をはじめパソコンなど業務に不可欠な物品などにも多大な支障をきたしました。営業するにあたって、必要物品の調達、何より職員が無事に仕事に來れるのかなど心配ばかりしていましたが職員皆の頑張りもあり、一月四日から無事営業が可能となりました。

営業する際、大きな問題は、①トイレの水が使えない：毎日水を確保するのに走り回っていました。②物資不足（弁当が準備できない児童の食べ物の確保）：七尾市をはじめ、各団体さんから配給をいただき大変感謝しています。③必要な物品の準備：ゆめ風基金さんの援助で、パソコン。テレビ・炊飯器・ストーブなどの電化製品等の救済金を頂き、心から感謝いたしております。④内外部の損傷：危険な場所の修繕が難民を助ける会から救済金を頂き大助かりでした。七尾市、ゆめ風基

金、難民を助ける会の援助のおかげで、災害で被災した大きな傷から小さな傷に改善いたしました。

また、震災後に居住地を失った障害者のために某グループホームから生活介護の要請があり、そのことは以前から当事業所も考えており、意見が一致し令和六年九月の開所に向けて改修工事に入りました。

建築業者には被災者の修繕工事で忙しい中優先してきていただき、八月末で改修工事を終えることができました。その際にもゆめ風基金より新しくお風呂の設置やキッチンの設置に多大なるご支援をいただき心よりお礼を申し上げます。令和六年九月より生活介護事業所を運営させることができました。行政、ゆめ風基金のご協力があった。の事と感謝申し上げます。

最後にご協力を頂いた企業様のご恩を忘れず、この信頼できる職員と障がい者に寄り添っていきたくと考えます。ありがとうございました。

特定非営利活動法人七尾鹿島手をつなぐ育成会の職員。「ほうぷ子どもの家」
「生活介護ほうぷ」の管理者。

俺らの『すまいる』で、 また5人で暮らしたい

建物の中に入ると床が傾き、ビー玉が四方八方に転がっていく。周辺の道路は陥没、液状化、隣家の塀は崩れ落ちていた。日が経つにつれ、増々傾きは激しくなり、「もうこの場所で住むことはできない」と思った。

「残念だけど『すまいる』を閉鎖しようと思う」と5人のメンバーたちに伝えた時、ずっと無言だった昌也さんが「どこのホームにも行かない。次の『すまいる』ができるまで家に帰る。だけど、俺らはこの5人で『すまいる』なんや」と言った。他のメンバー4人も黙って頷いていた。きっとみんな同じ気持ちだったのだろう。この時、『すまいる』の再建を目指そうと決意した。何とか空き家を探したものの、土地・建物・リフォーム代で約2000万円が必要だった。資金がない。補助金も条件に当てはまらなかった。

復興イベント企画や復興支援ギフトの販売、募金瓶と寄付のお願い、自分



よしだ
吉田まゆみ
【羽咋市】
一般社団法人つながり
理事・サポーターハウス長

たちができることをやった。全国からの応援は1年間で503万6366円。ありがたく感謝しかない。そして、「ゆめ風基金」と「AARJapan 難民を助ける会」に資金援助の願いをして、合わせて1400万円の助成金が確定した時は、『すまいる』ができる！とメンバーたちと万歳をした。「2025年、新しい年を迎えるのは『すまいる』やね」が合言葉になっていった。

『すまいる』が完成するまでに何度も「集まって〜」と彼らにいろんなことを相談してきた。お金が足りないことを伝えた時、頭を抱えた5人だった。でも絶対にあきらめることはせず、それぞれに自分の思いを語りだしていた。「一人暮らしの夢があること」「家もいいけど、ちょっと家族はややこしいこともある」「(地震で自宅がなくなってしまい)『すまいる』は俺の家なんや」と。

地域サポートハウス衆生(らっきい)をはじめ2か所の就労支援事業と3か所のグループホーム(GH)・放課後等デイサービスを運営する。能登平島地震でGHすまいるが被害を受ける。

知的障害がある彼らが緊張しながら自分のことを語る姿にあればとしか言いようがなかった。「大丈夫、だいじょうぶ、必ず『すまいる』を作ってあげるからね」ではなく、彼らを真ん中において「一緒に考えようよ、どうする？」ということを常に大事にしてきた。彼らは、外壁の色、自室の壁、カーテンの色、浴槽と便器の色まで自分たちで決めた。

1月に完成。『すまいる』を見に来られた方に、目を輝かせて自信もあって「これが僕の部屋です！」と紹介している。きっと『俺たちのホームすまいる』という実感をもっているのだろう。

この場をお借りし、応援して頂いた全国のみなさんにお礼を申し上げます。ぜひ、『すまいる』にお立ち寄りください。メンバー達が待っています。

リレー・エッセイ 災害と障害者 第八十四回

能登半島地震・豪雨災害から 紡いできたつながり

能登半島地震、奥能登豪雨により被災された皆様
に、心よりお見舞い申し上げます。またこれまでに
支援してくださった多くの方々感謝申し上げます。

地震が発生したのは家族と初詣に出かけていた時
で、目の前で灯籠が崩れ、立つことも難しく家族を
守るので精一杯でした。家族の理解もあり、法人の
福祉サービスを管理する部長の立場でありましたの
ですぐに職場に向かいましたが、道路が歪み、液状
化により水があふれ、信号が停止し、夕暮れの中で
津波警報のサイレンが響き渡り、携帯が鳴りやまず、
利用者や職員が無事なのかと不安な想いが強くなる
中で支援を始めました。この時に印象に残ったこと
は1月1日に地域活動支援センターに来た利用者達
でした。避難所へは行かず利用者にとって安心の場
所に集まっており、いかに居場所が大事なのかを感
じました。

大事な居場所を守るために各福祉サービス事業所
の再開を考えましたが、道路事情や給油制限により

かわもと ひろやす
河元 寛泰



石川県七尾市出身。医療法人
松原会地域支援部部长、相談
支援事業所ピアサポートのと
で精神保健福祉士・相談支援
専門員として、石川県七尾市・
中能登町をエリアで活動。

もとりこぼさない支援」を大事にしながら支援を展
開しています。被災者の中には制度や情報などが行
き届かない、情報があっても申請等どうすればよい
かわからず手続きできない方も多くいます。誰もと
りこぼさないために、また被災地に寄り添い支援の
おしつけにならない様に、全体をコーディネートす
ることや各支援者のアセスメント等の質を向上する
などの人材育成など中間的機能が求められると感じ
ております。

被災地支援をするなかで、音や距離感の近さなど
から避難所や仮設住宅で生活することが難しく全壊
等の自分の家で生活をする方、公費解体を選択する
かどうかや仮設住宅後の生活、生活再建に向けて不
安を感じる方、今まで生活していたが地域基盤が被
災したことにより生活が難しくなった方、通院等の
移動支援サービスが以前から地域になく、災害後
より移動が難しくなった方たちがおられます。また、
8050問題だけでなく9060問題、ひきこもり
など今まで地域の中で潜在していた課題などが次々

送迎が困難、断水によりトイレなどの課題、就労系の事業所では被災により仕事がなくなくなるなどの厳しい状況であり、避難等により利用者や職員が少ない中でも運営をしなければならない状況でもありません。その中でも救援物資が届いたり、入浴のために施設を利用して頂いたりと普段からつながりのある方々やゆめ風基金、日本障害フォーラム、難民を助ける会など被災後につながった方々から支えられ、被災後も安心して生活が送れるように支援を続けることができました。また被災しながらも働く職員の疲弊が強く、職員の応援体制として一緒に働いてくれることや職員の想いを聴いてくれることは心強く感じました。さらには9ヶ月経過した頃に県外の方を講師に招き研修を開催した時に、被災地で働く仲間たちが集まり、語らうことでほっとすることができ、明日へ向き合うこともできたことから支援者支援の必要性を感じております。

普段は七尾市、中能登町で活動しておりますが、能登半島地震では奥能登の相談支援体制の機能が低下したこともあり奥能登もエリアとして活動しました。市町の福祉課、地元の相談支援事業所など関係各機関、被災地外からの支援団体等をつなぎながら体制を考え、チームの中で「被災地ファースト」「誰

に顕在化されています。被災により仕事や日中の居場所等の社会資源などを失うことがありますが、新たな取り組みや体制などを考える機会にもなりました。七尾市、中能登町では自立支援協議会にてこれまでの課題や活動などを振り返り、七尾市社協が配布した緊急ファイルとの連携や災害に関する個別支援計画書も模索しております。

これらの活動は「私」だけでは困難であり、つながりから紡ぎだされた「私たち」だからこそ展開できてきたものだと考えております。また平時から備えておかなければ災害時には動けないことも改めて感じております。さらに自分を大切にし、無理をしないことが大事でありセルフケアもぜひ日ごろから考えておくの良いと思います。私はこれからも能登で生きていきます。能登に生活する者として、精神保健福祉士、相談支援専門員として、一つずつできる範囲で活動を継続していきたいと思っております。もし願うのであれば皆様にも今後引き続き心身を寄せて忘れないで頂ければ嬉しいです。たくさんつながりがあることで私たちは活動ができますので、想いを寄せ合い、お互いにできることから一緒に一歩ずつ歩めたらと思います。

2016年BCP机上訓練



BCPのご相談はゆめ風基金に！

本来の福祉事業所の 事業継続計画とは？

事務局長 八幡 隆司

なぜ義務化なのか？

2021年の介護報酬改定に伴い、介護保険法や障害者総合支援法に基づく福祉事業を行う福祉事業者に対して、事業継続計画（以下BCP）策定が義務化され、2024年4月から研修と訓練も行う必要が出てきました。

国は南海トラフなどの災害に備え、2020年までに大企業の100%、中小企業の50%でBCP策定することを目標としていました。ただこれはあくまでも目標なので、義務化する法律はありませんでした。

2017年に全国の災害拠点病院でのBCP策定は義務化されましたが、これは全病院の1割にも満たず、今もその他の病院ではBCPは策定されていません。

福祉サービス事業所ではたった一人で相談事業をしているところもありますが、それらも含めすべてのところでBCP策定と研修・訓練が義務化されたのです。

企業のBCPと福祉事業所のBCPの違い

企業にとってBCPを作る目的は重要業務を守り、災害があっても収益を落とさないことにあります。だからBCP策定は業務の優先順位を決めることが重要とされ、1日も早い事業の再開が目標となっています。しかし福祉サービス事業所では災害時に利用者の命と安全を確保することを優先するので、収益につながる業務が多く発生します。事業の再開が遅れても、あくまで障害者や高齢者（その家族も含めて）の生活再建に尽力することが求められます。災害時には様々な相談が寄せら

れますが、いくら電話で相談を聞き、その相談に対処するため動いても、現在の基準では1円の収益にもなりません。企業のBCPから見るとこれは優先順位が低いということです。また厚生労働省が災害時に膨らむサービスを想定した予算を組むこともなく、その一方で義務化しているのもおかしいことだと思っています。

講師が圧倒的に不足したままの研修義務化

これまでの災害で障害者への支援を行っているところはゆめ風基金を含めてもほんのわずかです。まして災害時の福祉施設の状態やBCPのことを分かっている人はそういないはずです。それなのに全国に5万か所近くある福祉サービス事業所の研修を誰が引き受けることができるかと考えているのでしょうか。現在多くの経営コンサルタント会社が福祉サービス事業所のBCP研修に参画していますが、それらの人は企業BCPに詳しくても災害時の福祉事業所のことを知らない人ばかりです。厚生労働省のホームページにあるBCP研修動画でさえ、おそらく経営コンサルタント会社が作ったと思われるような福祉事業への理解を欠いたものとなっています。

ゆめ風基金では14年前から大阪でBCP研究会を続けています。BCPがこのような状態で義務化されたことは本意ですが、せつかく毎年研修をしなければならぬのであるなら、災害時に障害者・高齢者が本当に安心して暮らせるような研修になればと思っています。

もしBCP研修などで困っているところがあれば、ぜひゆめ風基金にご相談ください。

応援団からこんにちは！

vol.13

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。



福島県郡山市

認定NPO法人ふよう士2100

理事 おおさわ やすひろ 大澤 康泰

私たちは、「2100年に福島で生まれた子ども達が安心して暮らせる、より幸せな地域を作るため、私たちが有機腐葉土となって子ども達の命と安全を守る活動を続ける」をミッションに、東日本大震災・原発事故で被災した障がい者家族のみんなの居場所づくりに励んでいます。

障がい児通所支援事業、障がい者家族の相談支援事業では、子どもたちが、巣立つ時まで、切れ目なく支えるよう一人一人の個性を尊重し、職業体験や生活訓練など自立支援活動に力を注ぐ日々を過ごしています。

この冬、ゆめ風さんの救援金助成を受けて、「あゆむ」の給排水改修工事を手掛けることができました。おかげさまで、これまでなかなかお湯が出なくて、「冷たくて嫌だ!」といていた子どもたちも、安心して手洗いすることができ、感染予防対策も強化できました。

東日本大震災・原発事故直後の活動から今年で15年目を迎えます。原発事故の記憶が次第に薄れていく中、福島県で活動する地元NPOに寄り添ってくれる皆さんの支援に心より感謝を申し上げます。

これからも福島の未来づくりの一員として、多様性のある子どもやそのご家族が平等に安心して暮らせる地域を目指していきます。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第13弾!



宮城県相馬市

NPO法人みんなのしあわせプロジェクト工房もくもく

所長 さとう きだひろ 佐藤 定広

ゆめ風さんを知ったのは、東日本大震災の直後のことでした。当時、私は南相馬市の障がい者の福祉事業所で働いていましたが、原発事故でほとんどの市民、利用者が県内外に避難しました。

2011年6月に仙台で開かれる「とっておきの音楽祭」というイベントに参加予定でした。利用者も避難を余儀なくされ、戻ってきた利用者も数人の状態でしたが、参加することに決めました。その時、音楽祭の事務局の紹介で、支援してくださったのがゆめ風さんでした。涙、涙の再会、みんなでオリジナルの曲を歌うことができました。

その後、私は地元の相馬市で「工房もくもく」を立ち上げましたが、令和元年の台風19号と1ヶ月後の大雨で、床上浸水と車が水没。その時、送迎車の購入費用の一部を支援してくださったのが、ゆめ風さんです。その後、高台に移転しましたが、震度6強の地震が発生、それでも前を向いて進んできました。

能登の大地震と大雨、大船渡での山火事、全国で自然災害が頻繁に発生しています。情報収集と情報発信、困っている時に、いち早く動いてくれるゆめ風さんをリスペクトしていますし、これからも応援していこうと思っています。

2025/1-3

カンパをいただいた団体

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたらご連絡ください。

1/7	自立生活センター松山 (松山市)	2/27	障害児・者の生活と教育権を保障しよう (大阪市)
1/8	清心中学校・清心女子高等学校 (倉敷市)	3/4	障害者生活支援センターぐっどらいふ (松山市)
1/10	出発のなかまの会 (大阪市)、聖愛園 (大阪市)	3/6	錦保育園 (登米市)
1/14	大阪ヨハネ教会女性の会 (大阪市)	3/11	自立生活センター松山 (松山市) まちっこプロジェクト (江戸川区)
1/17	プール幼稚園 (大阪市)	3/12	草の実会ネットさぼっろ (札幌市)
1/18	黒川こころの応援団 (黒川郡)	3/14	岡山マインドこころ (倉敷市)、いーはーとーぶ (さいたま市)
1/24	喫茶楽風 (さいたま市)	3/17	吹田障がい者協議会 (吹田市)
1/30	出発のなかまの会 (大阪市)	3/18	坂町心身障害児者ゆずりはの会 (安芸郡) 黒川こころの応援団 (黒川郡)
2/5	豊能障害者労働センター (箕面市) 聖バルナバ病院 (大阪市)	3/24	ゆめ風ネット加賀 (金沢市)
2/10	自立生活センター・立川 (立川市)	3/25	ひまわり事業団 (静岡県) 尼崎 1.17 阪神大震災鎮魂と防災の集い実行委員会 (尼崎市)
2/13	えにしに集う音楽仲間たち (大阪市)	3/31	日本自立生活センター (京都市) かまくら福祉・教育ネット (鎌倉市)
2/18	黒川こころの応援団 (黒川郡)		
2/20	大冨洗町障がい児者親の会げっこ		
2/26	坪井令夫商店 (名古屋市)、明照幼稚園 (葉山町)		

お詫び

2024年12月24日にグリーンハイツ地区福祉委員会様よりご寄付をいただいていたが、手違いにより記載が漏れておりました。また、2024年8月～12月に黒川こころの応援団様よりご寄付をいただいていたが記載が漏れておりました。心より深くお詫び申し上げます。

事務局のうごき

2025年1月から3月の動きを一部ご紹介します。

毎週(曜日不定):事務局会議 | 毎週金曜日:新HP打ち合せ ※BCP(事業継続計画)

1/6	大阪手をつなぐ育成会講演	2/4	能登半島支援会議
1/7	おおさか災害支援ネットワーク(OSN)世話役会 能登半島支援会議	2/5	NPO法人チャレンジド講演
1/8	BCP研究会	2/10	OSN定例会
1/11	自立ステーションつばさ講演会	2/12	明石市障害当事者等団体連絡協議会講演
1/14	奥能登地域自立支援協議会輪島市連絡会	2/13	奥能登地域自立支援協議会輪島市連絡会 JDF能登支援報告会、理事会
1/15	大阪救援本部会議	2/14	童夢KANSAI実行委員会
1/15・16	通信臨時号発送	2/17	名古屋市東区講演
1/18	街頭カンパ	2/19	通信110号編集会議
1/20	30年イベント企画会議、理事会	2/26	30年イベント企画会議
1/22	移動支援ネットワーク・さかい講演	2/28	通信110号編集会議
1/23	OSN世話役会	3/4	能登半島支援会議
1/25	兵庫障害者問題連絡会議講演	3/11	田辺三菱製薬労働組合講演
1/29	天王寺区自立支援協議会講演	3/12	BCP研究会
2/1	人権平和学習会 ZOOM 補助	3/15・16	総会
2/2	自立生活センターリアライズ講演	3/24・25	通信110号発送作業
2/3	通信110号編集会議	3/26	JDF能登支援会議
2/4	Beすけっと講演	3/28	理事会

NPO 法人 ゆめ風基金
会計報告

ただいまの基金額
331,387,513円

貸付金の残高 **0**円
これまでの救援金・救援活動費総額 **664,330,513**円
総会員数 **13,855**人

		前回報告残高	この3ヶ月の動き 1月から3月まで	今回報告残高 2025年3月現在	
収支計算書	収入の部	会費収入	2,376,519	2,376,519	
		寄付金収入	24,923,258	24,923,258	
		臨時寄付金収入	654,161	654,161	
		助成金収入	0	0	
		事業収入	623,061	623,061	
		雑収入	47,090	47,090	
		貸付金返済収入	0	0	
		保証金返済収入	0	0	
		預り金収入	435,406	435,406	
		未収入金収入	217,000	217,000	
		未払金収入	0	0	
	合計	29,276,495	29,276,495		
	支出の部	救援金支出	11,900,499	11,900,499	
		救援活動支出	147,609	147,609	
		貸付金支出	0	0	
		基金拡大活動支出	67,768	67,768	
		防災活動事業支出	184,390	184,390	
		広報活動事業支出	709,461	709,461	
		その他事業支出	209,040	209,040	
人件費支出		3,048,489	3,048,489		
その他事務費支出		1,750,130	1,750,130		
預り金支出		529,280	529,280		
未払金支出		292,920	292,920		
固定資産購入支出		0	0		
保証金支出		0	0		
合計	18,839,586	18,839,586			
差引：収支差額			10,436,909	10,436,909	
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	321,615,168	9,772,345	331,387,513
		一般会計現金預金	2,701,250	664,564	3,365,814
		[現金預金合計]	324,316,418	10,436,909	334,753,327
		障害者貸付金	0	0	0
		有形固定資産	202,489	0	202,489
	その他の資産	1,349,449	△ 217,000	1,132,449	
	合計	325,868,356	10,219,909	336,088,265	
	負債の部	未払金	292,920	△ 292,920	0
		預り金	238,830	△ 93,874	144,956
		その他の負債	0	0	0
合計		531,750	△ 386,794	144,956	
差引：正味財産		325,336,606	10,606,703	335,943,309	

脚注 1. 今回は1月から3月までの3ヶ月間の報告です。
2. 救援金は17件の支払いがありました。(能登15件ジャマイカ台風1件東日本1件)
3. その他は特に大きい変動はありません。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災

2016年熊本地震

2018年西日本豪雨

2024年能登半島地震

350,427,104円

55,598,387円

45,164,095円

75,579,779円

そよ風、つむじ風、六甲おさし

各地からの風だより

2025.1-3

▼逆境にある方々が心おれても、何とかもう一度立ち上がれますように(世田谷区) ▼私の兄も障害者、姉妹の援助なくては生活できません。能登で被災された方々、障害のある方に、少しですがお役に立てればと思います(前橋市) ▼ガザの子どもたちを思うと一刻も早く攻撃をやめて欲しいです。平和な世界を実現してあげたい(立川市) ▼能登の二重被災に阪神淡路大震災から30年経っても忘れない当時の気持ちになり、わずかながら力になればとゆめ風さんに託します(大阪市) ▼世界が変わろうとしています。自国の利益のためには手段を選ばず、他国に軍事圧力をかけ奪おうとする為政者が目立つようになりました。懸念しつつも強い力にのみこまれたら。戦争の脅威を感じます(船本市) ▼能登の皆さんに笑顔が戻りますように(野々市市) ▼永さん、牧さんを偲びつつ30年…「これまで」「これから」も大切だと改めて思う「今」(明石市) ▼自立の位置で頑張る、人に心温まることがありますように(東久留米市) ▼過疎地にはこんなに冷たい！まだ水も出ないと聞くと涙が出ます。わずかながらよろしく(長岡京市) ▼能登半島地震被災障害者の皆様へ。私も軽度ですが、精神障害があります。何かのお役に立てればと思います。送らせていただきます(取手市) ▼12月に閉店しました。これまで店のお客様からお預かりした寄付金です。よろしくお願います(箕面市) ▼

能登、北陸の方々が不安な冬をまた迎えていることが心苦しいです。活動ありがとうございます(港区) ▼南海トラフ地震が起これば、障がい者はどうなってしまうのだろうか？(長岡京市) ▼寄付金をたくせる信頼できる団体があることがうれしいし、ありがたいです。(和光市) ▼風だより送って頂きありがとうございます。読んで視野を広げています(さいたま市) ▼能登地震、岩手山火事と災害が続きます。誕生日を記念して少しですが役立てて下さい(常総市) ▼岩手山火事で避難生活を送る方へ(下妻市) ▼大船渡の支援にお使い下さい(佐久市) ▼フクシマは全然終わっていないし、列島災害だらけ、原発最大限利用なんてとんでもない!!(河東郡) ▼弱者に助けを。求めている方に届きますように。宜しくお願致します(三島郡) ▼色々災害が続いています。政府ももっと本気で対応をして欲しいですね(北杜市) ▼足が弱って来ましたが毎日を穏やかに過ごせる事を感謝して送らせて頂きます。この世から戦争、天災がなくなりますように祈りながら！(浦安市) ▼軍備は充実しても市民の生活は守れない。軍備より車イス住宅を！(中川郡) ▼今年で90才になります。まだ今後も続けていきたいです(三浦市) ▼困難な状況にある方々に本当に後立つ支援をしている「ゆめ風」に寄付できて、私自身が救われる思いでおります(横浜市)

ゆめ風ブログ (<https://yumekazek.com/blog/>) にも掲載しています

編集後記 ▶能登の方から「穴水町にある鹿島駅は、通称さくら駅と呼ばれ、今年も満開の桜が咲きました。これからは能登キリシマツツジが見頃です」との心温まる知らせが届きほっこりしました。(う)

牧口一ニさんを語り合う会のお知らせ 昼の部 2,000円(記念誌付) / 夜の部 3,000円

2025年8月18日(月) 14:30~19:30(開場 13:45) 大阪府教育会館 たかつガーデン (大阪市天王寺区)

【昼の部】 14:30~17:35 「8人が牧口さんを語ります」

- ・パネルディスカッション「牧口さんがのこしたものと伝えたいこと」人権・教育・交通街づくりの視点から
- ・小室等さん・こむろゆいさんライブ「♪マキさんきこえる〜?」

【夜の部】 18:00~19:30 「懇親会~全員でとことん話そう！」

申し込み方法 メール / FAX / はがき / Web [<https://bit.ly/maki3>] ▷

【申し込み先】 ゆめ風基金：大阪市東淀川区東中島 1-13-43-106

TEL:06-6324-7702 / FAX: 06-6321-5662 / E-mail: goodbye.makisan@gmail.com

